

《情報公開文書》

免疫複合体の抗原エピトープ特定法の構築

研究の概要

【背景】自己免疫疾患では自己抗体が抗原-抗体複合体（免疫複合体）を形成し、それが組織に沈着して炎症を引き起こしますが、多くの疾患で標的抗原は未解明です。現行のステロイドや免疫抑制剤は免疫全体を抑制するため副作用が大きく、根治的治療にはなっていないのが現状です。免疫複合体の形成に関わる抗原および抗原の中の抗体が認識する部位(エピトープ)を直接同定できれば、病因解明と治療開発が前進しますが、体内の免疫複合体からエピトープを直接特定する手法はありませんでした。

【目的】本研究の目的は、我々の研究グループで構築したエピトープ特定法(架橋質量分析法)が患者さんの血清中の免疫複合体に適用可能かを検証することです。具体的には、血清中の免疫複合体から抗原エピトープを直接同定できるかを評価し、手法の臨床的有用性を明らかにします。

【意義】本手法の有用性が示されれば、様々な自己免疫疾患において、エピトープレベルでの病態理解が進みます。さらに、免疫複合体形成を分子レベルで抑制する標的治療の開発に繋がる可能性があります。

【方法】患者さんの血清から免疫複合体を精製し、架橋質量分析によって抗原-抗体の相互作用部位を調べることでエピトープ部分を調べます。

対象となる患者さん

国立病院機構共同臨床研究「原発性胆汁性胆管炎の新しい病型分類と創薬のための長期観察研究」(R2-NHO(消化)-01)ならびに長崎大学病院臨床研究「自己免疫疾患における免疫複合体研究」(長崎大学病院臨床研究倫理委員会許可番号24101007)の研究の対象となった原発性胆汁性胆管炎の患者さん

研究に用いる試料・情報

●研究に用いる試料・情報

前研究で収集された血清試料を使い、免疫複合体抗原のエピトープ情報を調べます。

本研究で利用する試料・情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。本研究で使用する試料・情報は、個人を特定できないように匿名化されており、特定の個人を識別することはできません。そのため、この研究に使われたくないと申し出られた方を対象者から外すことができません。あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2026年12月31日

研究実施体制	
研究責任者	所属：長崎大学病院 薬剤部 氏名：大山 要 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095 (819) 7245
試料・情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
【研究の内容、試料・情報等の利用停止の申し出について】 長崎大学病院 薬剤部 大山 要 〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095 (819) 7245 FAX 095 (819) 7251	
【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療相談室 095 (819) 7200 受付時間 : 月～金 8:30～17:00 (祝・祭日を除く)	